



1月・2月の管理ポイント

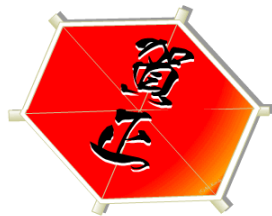
ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第133号

明けましておめでとうございます。

昨年は、弊社推進商品をご利用頂きまして、誠にありがとうございました。

本年も、抗ストレス剤『レボ』をはじめとする各種浸透剤や、抗ストレス剤『インターセプト』、サッチ分解剤『サッチ・マネージャー』などのラインナップで、ターフメンテナンスのサポートに努めてまいりますので、変わらぬご支援を頂けますようよろしくお願い致します。



春先(3~5月)

春の水管理が、芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

レボは**土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆います**ので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。

この効果が、グリーンの表層を少し乾燥気味にし、根に軽いストレスを与えるため、根の伸長活動を活発にさせます。

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境が整います。夏が来るまでにしっかりと根域が形成できるように管理していきましょう。

4月よりベントの本格的な生育最盛期になります。レボ+光合成細菌を定期処理することで土壌表層の通気性を確保できます。昨年末から蓄積されてきた悪臭物質を減らしていきましょう。

また地温の上昇に伴い、土着菌の活性も上がって行きます。

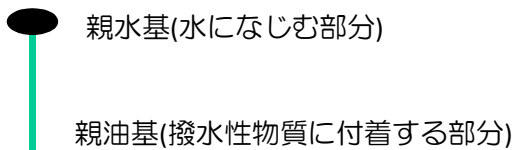
最初に土着菌の勢いを付けさせるために、動物性アミノ酸たっぷりのマリンパワーを処理して、土壌に栄養を与えておきましょう。

使用量：レボ	2ml/m ²	散布水量：200ml~1L/m ²	散布回数：1ヶ月に1回
光合成細菌	1~2ml/m ²	散布水量：1L/m ²	散布回数：1ヶ月に1~2回
マリンパワー	2ml/m ²	散布水量：1L/m ²	散布回数：1ヶ月に1回

界面活性剤の構造タイプから見る浸透剤の違い

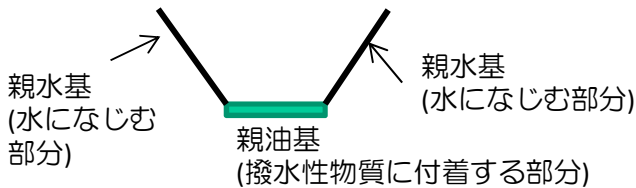
浸透剤には様々な種類があり、それぞれ特徴が異なります。剤ごとの特長は、浸透剤の主成分である界面活性剤の構造によって変わってきます。今回は、弊社の非イオン界面活性剤を利用した浸透剤を例に挙げて、浸透剤の構造と特長を簡単にご紹介します。

アクアグローLタイプ



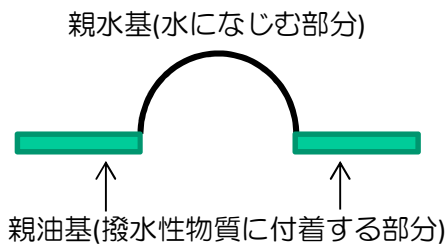
古いタイプの浸透剤。1本の親水基なので水を捕まえる力は弱く、残効が短い。しかし浸透力は強いので、肥料や農薬とタンクミックスして土壤中に成分を行き渡らせるのに適している。

1690タイプ



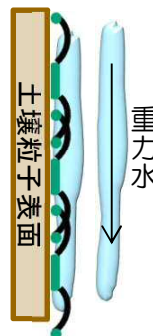
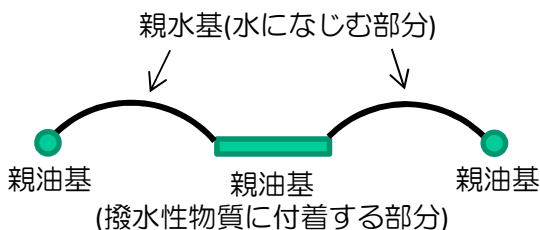
一般的なタイプの浸透剤。1分子が2つの親水基を持つため、アクアグローLタイプに比べ水を捕まえる力が強い。また、親油基の構造上、残効は比較的長い。

プライマーセレクトタイプ



特殊なタイプの浸透剤。親水基が長く、水を捕まえる力が強い。また、2つの親油基を持つため土壌粒子に付着しやすく、残効にも優れる。土壌中の水分を均一に維持し処理層を形成させる(土壌の水分コントロールに適している)。

レボタイプ



特殊なタイプの浸透剤。2本の親水基の横に親油基のアンカーが付いており、土壌粒子全体を薄くコーティングする。土壌中の水分を均一に維持し、処理層を形成させるが、**プライマーセレクト**に比べ余分な土壌水分が重力水として下方に移動する。

一口に浸透剤といっても、上記のように様々なタイプが存在します。それぞれのタイプが異なる特徴を持っており、グリーンの土壌構造や使用時期の天候、求める効果などによって、相性の良い剤は違ってきます。グリーンの状態を見極め、最適な浸透剤を選択することができれば、水管理のクオリティは格段にアップします。